

伊方原発設置変更許可申請書に対する 審査案についてのパブリック・コメント

関口 守
Energy Campaigner
Greenpeace Japan

GREENPEACE

www.greenpeace.org/japan

1.地震のリスクは日本一？



- 中央構造線と南海トラフという二つの地震源に挟まれた伊方原発

GREENPEACE

www.greenpeace.org/japan

1.地震のリスクは日本一？

設置変更許可審査書 p. 20

基準地震動の策定：620ガル、650ガルとしているが、地震学者石橋氏によれば、中越沖地震の際に柏崎刈羽原発で記録された1699ガルを考慮に入れた上で1700ガルとすべきである。

(岩波『科学』2014年8月号p. 875参考に、筒井哲郎氏による)

1.地震のリスクは日本一？

設置変更許可審査書 p. 20

高浜原発再稼働差止め決定において、700ガルの想定に関しても樋口裁判官は、「各電力会社が耐震設計において想定した基準地震動を超える揺れが2005年以降、5回以上発生しており、想定そのものの信頼性が失われている。」とした。

伊方原発の基準地震動策定にあたっては、従前の基準地震動策定の域を出ているとは考えられず、その信頼性が回復しているとは言えない。

2. 放射能が瀬戸内海に たまり続ける



GREENPEACE

www.greenpeace.org/japan

2. 放射能が瀬戸内海に たまり続ける

設置変更許可審査書 全般

伊方原発は瀬戸内海に面しており、福島第一原発と同規模の事故が発生した場合、放出された放射性物質は瀬戸内海にとどまり続ける恐れがある。

福島第一原発での放射性物質放出データを元に新たにシミュレーションを行うべきである。

日本で唯一内海に面する伊方原発は、立地の適格性にさかのぼって審査をし直すべきである。

3. 逃げられない



GREENPEACE

www.greenpeace.org/japan

3. 逃げられない

設置変更許可審査書 全般

原子力規制委員会では再稼働審査の項目に避難計画を入れていない。他方、アメリカNRAでは避難計画は重要な観点として審査対象とされている。政府からの信任を受けて世界最高水準を標榜する以上、他国以上に安全性に配慮することが求められる。

特に伊方原発で事故が発生した場合、佐多岬半島側の住民5,000人は孤立する可能性が高く、避難経路の道路状況等も十全でない。

GREENPEACE

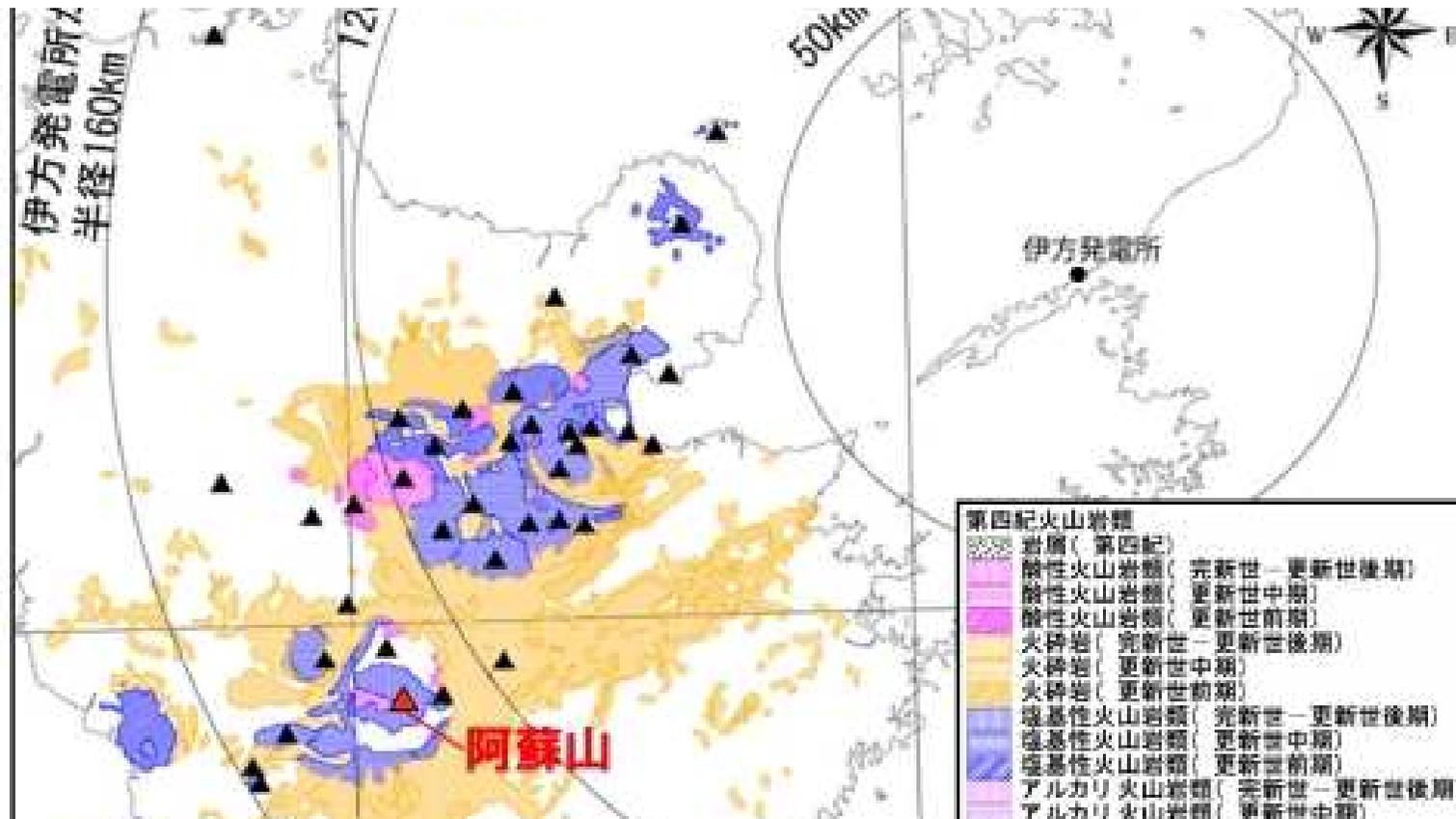
www.greenpeace.org/japan

4. 事故リスクが拡大する プルトニウムMOX燃料

伊方原発は「MOX燃料使用を前提としている」とされているが、東電福島第一原発事故以前に用いられていた評価に基づいている。福島第一原発事故を経た今、MOX燃料の使用に関しては再評価が求められる。

MOX燃料の再評価を経ることなしに再稼働のプロセスは進められるべきではない。

5. 巨大噴火の危険も



GREENPEACE

www.greenpeace.org/japan

5. 巨大噴火の危険も

設置変更許可審査書 p. 63-71

四国電力は、伊方原発敷地内に火砕流が到達する恐れはないとしているが、火山学者が到達の可能性を指摘している。（87,000年前の阿蘇カルデラ破局噴火）

また、火山灰体積についても15cmと設定しているが、火山学者からその予測について疑問が呈されている。（小山真人：岩波『科学』2015年2月号）

専門家の指摘する大規模自然災害の可能性を考慮にいれての再評価が求められる。